

### 3年B組 国語科 単元設計・学習指導案

指導者 細川 美保

1 日時（場所） 12月15日（水） 8:50～9:40（3年B組教室）

#### 2 単元設計（単元名：おくのほそ道を味わおう（第3学年 C読むこと））

##### (1) 本単元で育成したい自立と共生の力

○問題の解決に向け，自ら考え，見通しを持って行動する力

○自分の気持ちや考えを表現し，伝える力

##### (2) 単元目標

○歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して，その世界に親しむことができる。

〔知識及び技能〕(3)ア

○文章を批判的に読みながら，文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。〔思考力，判断力，表現力等〕C読むこと(1)イ

○文章を読んで考えを広げたり深めたりして，人間，社会，自然などについて，自分の意見を持つことができる。〔思考力，判断力，表現力等〕C読むこと(1)エ

○言葉がもつ価値を認識するとともに，読書を通して自己を向上させ，我が国の言語文化に関わり，思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。〔学びに向かう力，人間性等〕

##### (3) 本単元における言語活動

古文と俳句を読み，考えたことを伝え合う。

（関連：〔思考力，判断力，表現力等〕C読むこと(2)イ）

##### (4) 重点目標

###### <本質的な問い>

古文を学ぶ意義とは何か。

###### <永続的な理解>

日本人らしさ，という言葉がある。それは，古来より続く日本人独自のものの見方・考え方，表現の仕方や所作を指すことが多い。では，それらをどこで学ぶのか。それは家庭の中や社会，生活の中で触れた情報の中で体得する。しかし人の一生は短く，身近な人から学ぶことができるのはほんの一握りの情報だけである。

その中で古文を読み深めることは，書かれた当時の歴史や状況を理解することはもちろん，脈々と続く日本人の見方・考え方に触れることにつながる。そして，様々な人，様々な時代の見方・考え方に触れることは自分の見方・考え方を広げることにつながる。

##### (5) 単元の評価規準

| 知識・技能                                           | 思考・判断・表現                                                | 主体的に学習に取り組む態度                                   |
|-------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|
| 歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して，その世界に親しむことができる。<br>(3)ア | 文章を批判的に読みながら，文章に表れているものの見方・考え方について考えることができる。<br>(C(1)イ) | 言葉がもつ価値を認識するとともに，我が国の言語文化に関わり，思いや考えを伝え合おうとしている。 |

##### (6) 評価の方法

| パフォーマンス課題                                                                                                                                                                                                                                          | その他の評価方法           |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|
| 芭蕉が旅をした46歳から亡くなる51歳までの5年間，推敲を繰り返したと言われる『おくのほそ道』。この作品は，芭蕉にとって一体どのようなものだったのでしょうか。実は，細川先生も芭蕉と同じ年齢で平泉と立石寺を訪れたのですが，今ひとつ芭蕉のものの見方・考え方について深く考えるに至りませんでした。そこで冒頭部分，平泉，立石寺の三つの場面から見えてくる芭蕉のものの見方・考え方を踏まえ，「芭蕉にとっての『おくのほそ道』とは」というタイトルで，細川先生を納得させるような小論文を書いてください。 | ○ワークシートへの記述<br>○観察 |

＜パフォーマンス課題についての予備的ルーブリック＞

|   | 知識・技能                                                                                       | 思考・判断・表現                                            | 主体的に学習に取り組む態度                                     |
|---|---------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|---------------------------------------------------|
| A | 「おくのほそ道」について俳句や文章の言葉を解釈しながら、筆者が作品をどのようなものと捉えているのか、言葉を根拠に客観的な説明ができており、三角ロジックが成立している。         | 複数の言葉を結び付けたり、様々な視点から解釈したりすることによって、新たな意味付けを行うことができる。 | 課題を解決するために仲間と積極的に自分の考えを伝え、話し合い、よりよい考えに辿り着こうとしている。 |
| B | 「おくのほそ道」について俳句や文章の言葉を解釈しながら、筆者が作品をどのようなものと捉えているのか、言葉を根拠に説明できているが、一部三角ロジックが成立していない部分がある。     | 複数の言葉を結び付けたり、いくつかの視点から解釈したりすることによって、意味付けを行うことができる。  | 課題を解決するために仲間と積極的に話し合おうとしている。                      |
| C | 「おくのほそ道」について俳句や文章の言葉を解釈しながら、筆者が作品をどのようなものと捉えているのかについて、言葉を根拠にした説明が十分でなく、三角ロジックも成立していない部分が多い。 | ある場面の心情や行動、情景等を表す描写に着目して、自分なりの解釈をしている。              | 課題解決に向けて仲間と積極的に話し合うことができない。                       |

(7) 指導計画（全9時間）

| 時間                     | ねらい・学習活動                                                                           | 重点          | 記録          | 評価規準（評価方法）                                                                                  |
|------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|-------------|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1                      | ・「竹取物語」「枕草子」「徒然草」「平家物語」と「おくのほそ道」の冒頭部分を比較し、気づいたことについて話し合う。                          | 態           |             | ・様々なジャンルの古文の冒頭部分と比較しながら、気づいたことについて話し合うことができる。<br>(ワークシート・観察)                                |
| 2<br>3                 | ・パフォーマンス課題を知り、冒頭部分を読み深めることを通して、課題解決に向けて、どのような視点で読み深めることができるのかを話し合い、課題解決と単元の見通しを持つ。 | 態<br>知      |             | ・課題解決に向けて、学習の見通しを持つとする。<br>(ワークシート・観察)<br>・古文を読み深めるために必要な視点と課題を設定することができる。<br>(観察)          |
| 4<br>～<br>7<br>本時<br>5 | ・「平泉」を読み深める。<br>・「立石寺」を読み深める。                                                      | 態<br>思      |             | ・古文を読み深めるために必要な課題を設定することができる。<br>(観察)<br>・多様な視点から、課題解決に向けて仲間と積極的に話し合おうとしている。<br>(ワークシート・観察) |
| 8                      | ・パフォーマンス課題に取り組み、作品の内容について深く考える。                                                    | 態<br>知<br>思 | ○<br>○<br>○ | ・パフォーマンス評価                                                                                  |
| 9                      | ・課題を読み合い、他者の考えに触れる中で、作品について考える。                                                    | 思<br>態      | ○           | ・仲間が書いた文章を読み、筆者のものの見方や考え方を捉え、自分のものの見方や考え方を広げるとともに、作品について自分の意見を持つことができる。<br>(ワークシート)         |

### 3 本単元と研究主題との関わり

#### (1) 生徒について

生徒 32 名(男子 16 名, 女子 16 名)は, 多様な意見や価値観を共有しながら, 意欲的に学習に取り組むことができる。グループ学習では, 個人が意見を出し合う中で, 共感したり反論したりしながら力を合わせて読みを深めることができる。現在までの様々な学習の中でも, 自分たちの疑問を基に課題を設定し, その解決に向けて意見を出し合い, 読み深めた。また, 3 年間の各教科の学びを活かし, 科学や歴史的事実, 哲学的な考えや自らの体験からなど多様な視点で読み深めることが自然にできるようになってきた。

しかし, 他者の考えを受け入れがたい生徒や反論することだけに喜びを感じている生徒も数名おり, 思考の広がりが止まってしまう場面もある。これまでは三角ロジックを活かした発言をさせることでその滞りをできるだけ解消してきたが, 今回の単元では, その三角ロジックの「理由づけ」の中に「視点」を意識して発言させることで, より多様で説得力のある発言を求めている。また, 「視点」が中学校での各教科の学びや体験からも多く求められることが考えられるので, 中学校の学びの集大成としての読みとしていきたい。

#### (2) 単元について

本単元で扱う教材『おくのほそ道』は江戸時代に書かれた紀行文である。本作品は芭蕉が 5 年の歳月をかけて推敲し, 書き上げた作品であり, ただの旅の記録としてではなく, 文学作品としてたいへん面白く興味深い作品として毎年生徒に親しまれている。命を賭し, 古人に思いをはせて旅に出た芭蕉。その芭蕉の思いを, その土地その土地で詠んだ俳句と文章の組み合わせを基に読み深めることは, 俳句を学習した直後の生徒にとっては楽しんで取り組めるものである。また, 文章があることで句の情景が具体的にイメージしやすいことや, 平泉の場面における歴史的背景なども, 生徒が関心を持って読み深められるポイントとなるであろう。

本単元で扱うのは冒頭部分と平泉, 立石寺の場面である。冒頭部分では, 旅や歌, 古人に対する芭蕉の思いと俳句に触れ, どのような視点で考えると読み深められるかを考える。その後, 平泉と立石寺の場面において, 冒頭部分で話し合った視点を基に, さらに視点を増やしながら読み深めていきたいと考えている。芭蕉の思いに寄り添ったり, 客観的に分析したりしながら読み深めることができる教材である。

#### (3) 「深い学び」の実現に向けた指導の工夫について

国語科における深い学びとは, 子どもたちが言葉と向き合い, 学習する過程において, 言葉自体やその奥にあるものに対する見方や考え方, 感じ方等が変容し, 新たな価値や認識を得ていくものであると考える。そのため, 次のような手立てを講じたいと考えている。

##### ア 学習者による読み深める視点の設定

主体的に対話し, 仲間と共に学びを深めるために, 言葉や文章に対する生徒の課題意識を大切に「読み深める視点」の設定を行う。個で考える時, 視点は一つに偏ってしまいがちだが, 多様な視点を意識させることで様々な角度で一つの言葉や文章を見つめることができ, より論理的な意見を持つことができると考える。また, 読解を苦手とする生徒にとっては, 視点が設定されることにより, 思考の道筋の手助けになったり, 自分の得意分野で発言したりできるのではないかと考える。さらに, 単元の初めにどのような視点を設定すればパフォーマンス課題の解決につながっていくのかを考えさせることは, 学習調整力の育成にもつながると考える。仲間と共に主体的に, 多様な視点を持って課題解決することの楽しさや有効性を改めて感じさせたい。

##### イ 学習者による学習課題の設定

どの言葉, どの文章, どの言葉, どの句に注目すればよいかを学習者で話し合い, その上で学習課題を設定する。今回の教材は古文であり, 俳句と文章が存在するため, 場面ごとに現代語訳で内容を確認した上で課題設定に取り組む。俳句の言葉と文章をどのようにつなげて読み解けば良いのか, また各俳句に共通する部分があるのかなど, 場面ごとの課題だけでなく, 各場面を貫く問いも立てさせることで, 新たな読みを発見させていきたい。

また, 授業の最後に課題設定について学級全体で振り返りを行い, その問いが読み深めるのに適切な問いであったか, 新たな気づきがあったかどうかを考える。その振り返りを通して, 次時の課題に設定につなげていきたい。

#### 4 本時の指導（5／9時間）

##### (1) 主題

平泉の場面での芭蕉の心情を読み深めよう

##### (2) ねらい

- 「平泉」に表れている芭蕉のものの見方や考え方をとらえ、自分の知識・経験や仲間の意見を踏まえて、学習課題に対する自分の考えをまとめることができる。

##### (3) 展開

| 学習活動<br>(形態)                                           | 時間                       | ○教師の働きかけ ・ 予想される生徒の反応                                                                                                                                                                                                                                                  | ○指導の工夫<br>◎評価規準（評価方法）                                                                                                                                                                                                   |
|--------------------------------------------------------|--------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 古文を音読する。<br>(小集団)                                    | 8                        | ○前時で学習した本場面の内容を思い出しながら音読しよう。                                                                                                                                                                                                                                           | ○学習活動に主体的に取り組ませるために、自分たちが考えた問いを基に学習課題を設定する。<br><br>○全体で古文を読み深めるために、これまで取り上げた「視点」を確認する。<br>○場面全体から読み深めるために、自分の発言を仲間の発言につなげるよう促し、言葉のつながりを意識させる。<br>◎古文や俳句の言葉や表現を根拠に読み取ったことを伝え合い、自分の考えを広げたり、深めたりすることができる。<br>(観察・ワークシート記述) |
| 2 学習課題を提示する。<br>(一斉)                                   | 2                        | 芭蕉は何に心を動かされたのか。                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                         |
| 3 学習課題について考え、読み深める。<br>(個人)<br>↓<br>(小集団)<br>↓<br>(全体) | 35<br>(5)<br>(5)<br>(20) | ・構成の視点から考えると、「夏草や」からは荒れた土地、「しらがかな」からは戦いの苦難が感じられる。二つの俳句を並べることで、「三代の栄耀」が過去のものであることを強調していると考えられる。その歴史的事実に共感して心が動いたのだと思う。<br>・芭蕉の生き方の視点で考えると「夏草」の青い勢いのある様子も「夢の跡」になってしまった「つはものども」に対し、「五月雨」の中に「降り残」され、現存している光堂と、対照的な二つのものを詠むことで、世のはかなさや矛盾、無情に過ぎていく時の経過と、自分の俳句に心を動かされたのではないか。 |                                                                                                                                                                                                                         |
| ↓<br>(個人)                                              | (5)                      | ・歴史的な視点から考えると、「跡」「残す」「旧跡」「功名一時」と藤原三代の栄華について細かく書かれていることから、栄枯盛衰の世のはかなさに涙を流したのだと思う。                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                         |
| 4 本時の学習を振り返る。<br>・視点について (全体)<br>・課題設定について(全体)         | 5                        | ○本時の各視点からの意見に共通していたのはどのようなことだったかについて発表しよう。<br>・いつの時代においても「生き方」を考える際に共通する部分があることがわかった。<br>○今日の課題は読みを深めるのに適切だったかどうかを確認しよう。<br>・多様な視点から考えられる課題設定だったと思うので、適切だった。                                                                                                           | ○次時の「立石寺」の読みに生かせるよう、本時の学びを振り返らせる。<br>○学級全体で自分たちが設定した課題が適切だったかを自己評価させる。                                                                                                                                                  |
| 授業研究の視点                                                |                          | ○視点を意識しながら読むことは、読みを深めるのに有効であったか。<br>○学習者の立てた問いで授業を実践することは、古文を読み深め、本質的な問いに迫る、深い学びの実現につながっていたか。                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                         |